

2020-2021年度



第2570地区

# 行田さくらロータリークラブ週報

国際ロータリー第2570地区ガバナーテーマ

「Let's make fellows!」「友達をつくらう」

ガバナー 相原 茂吉

会長方針

ロータリーを面白くしよう、  
そして楽しもう。

会長 長谷川 博

会幹編

長事集

長谷川 木瀬  
鈴木 梁松  
松渡 金田  
渡辺 沢村

敬一 博  
里由 昭明  
司浩 孝敏  
司敏 宏

事務局

埼玉県行田市行田5-10  
スリーハートビル3F

電話

048 (564) 3000番

例会日時

火曜日12:30~13:30

例会会場

ホテルガーデンパレス

電話

熊谷市佐谷田3248番地  
048 (525) 7777番

URL <http://www.gyoda-sakura.jp>

印刷：マツオカ印刷株式会社

## 第2201回(9月15日)例会報告

\*点 鐘 長谷川 博 会長

\*来訪者紹介

東京新聞熊谷通信局

記者 渡辺 穰 様

\*会長報告 長谷川 博 会長

\*幹事報告 上原 謙一 副幹事

\*出席状況報告 中村 重継 委員

\*ニコニコ報告 飯塚 秀司 副委員長

\*「ロータリーの友」読みどころ紹介

ロータリー雑誌委員会 神田 日出雄 委員

\*卓話

(紹介 公共イメージ常任委員会 五十幡和彦委員長)

東京新聞熊谷通信局

記者 渡辺 穰 様

\*点 鐘 長谷川 博 会長

## 会長報告



長谷川 博 会長

皆様、こんにちは、やっと日本の秋が戻ってきました。

今日は私の商売の原点、昔の中国についてお話を

したいと思います。私が中国での生産を開始したのは、

1972年 ニクソン大統領 訪中

1979年 田中首相の訪中

の前後だったと思います。

当時、中国への直行便は無く、香港経由、深圳より汽車で広州市に入りました。当時広州には外国人が泊まれるホテルは二軒しかありませんでした。

部屋数が少なく、知らない人と相部屋になることもありました。

当時、中国の工場は不開放（プーカイホウ）と呼ばれ、仕事のために工場に入ることは原則できませんでした。

広州交易会と呼ばれ世界中からバイヤーが商品の買い付けに来ていました。商品の価格は日本の三分の一程度で、非常にメリットがありました。滞在費用も非常に安く、ホテル代も一泊2000円程度だったと思います。外国人が当時非常に少なく、我々が百貨店に買い物に行くと「日本人が買い物をするのを」見るために人だかりができたことを覚えています。

1980年ごろの工場の平均給料は女性の経験者で3000円~5000円程度でした。為替レートは、1元=150円程度でした。

今から考えると、当時の中国、都市、地方も含め30年代の日本の原風景が見られたように思います。

有難うございました。

## 幹事報告



上原 謙一 副幹事

幹事報告をさせていただきます。

東京新聞熊谷通信局 記者 渡辺 穰様 御来訪を歓迎します。卓話よろしくお願いいたします。

9月22日は秋分の日で定款第7条第1節(d)により休会です。

9月29日第2202回例会は、行田市小見の真観寺での移動例会です。当クラブメンバーの中村重継住職による座禅修行例会です。真観寺本堂に11時30分時間厳守で集合してください。

以上です。

## 出席状況報告

中村 重継 委員

会員数	出席対象者	出席者	メーキャップ	出席率
52名	49名	25名	0名	51%

## ニコニコ報告

飯塚 秀司 副委員長

長谷川会長 渡辺記者本日は楽しみにしています。

細井パストガバナー 東京新聞、渡部記者様、本日の卓話、楽しみにしております。

横川会員 自民党新総裁に菅氏、就任おめでとうございます。日本経済の再興に期待しております。

矢澤会員 東京新聞、渡部記者ようこそお越し下さいました。卓話楽しみです。

神田会員 渡部記者本日はよろしくお願いいたします。

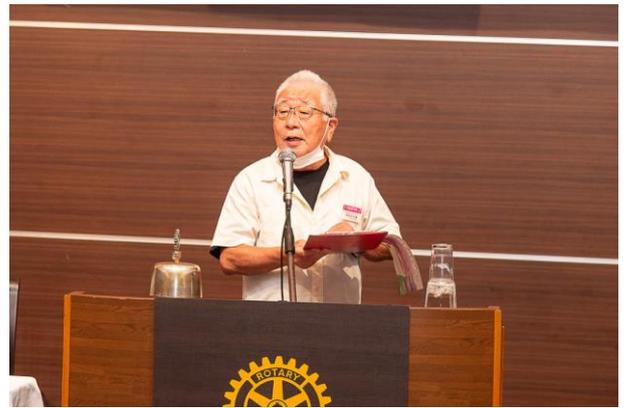
新井会員 東京新聞、渡部様 本日は卓話ありがとうございます。行田さくらRCの奉仕活動を取り上げて下さいますようお願い致します。

阿部会員 渡部様、本日は卓話ありがとうございます。お待ちしております。

五十畑会員 本日は東京新聞の渡部記者、卓話楽しみにしていただきました。よろしくお願いいたします。

(渡辺記者本日は楽しみにしています。)の同文として、戸ヶ崎直司、松本健一、渡辺昭孝、橋本恭一、春日雅樹、上原謙一、河野健人、梁瀬里司、丑久保紀美、長島豊、早崎敬、宮本伸子、飯塚秀司、松岡由浩、中村重継 各会員

## ロータリーの友 読みどころ紹介



ロータリー雑誌委員会 神田 日出雄 委員

## 卓話



東京新聞熊谷通信局

記者 渡辺 穰 様

新聞記者の仕事は、記事を書くことです。そして、その最高傑作は「スクープ」です。

新しい視点を紹介し、共感を得ることは何よりの喜びです。

私が学生だったころ、憧れだった、見本とする先輩たちがたくさんいました。深代惇朗さん、本多勝一さん、上前淳一郎さん、本田靖春さんら、数え上げたらきりがありません。

ところが、最近、何のために生きるのか、何が「幸せ」なのかなど価値観が大きく変化し多様化していると思います。絶対的な「モノサシ」がなくなり、若者たちは迷っていると思います。地方分権や街づくり、SDG s など、最近よく聞かされる考え方は、新しい価値観のひとつの表れだと思っています。

私たち記者には、信仰にも似た、信念があります。それは、情報は隠さず公開し、みんなで考え、評価すべきだということです。「報道の自由」と呼ばれているものです。そのためのスクープだと思っています。

